

# 2018年度事業報告書

自 2018年 4月 1日  
至 2019年 3月 31日

<目的及び事業> \* 定款 第3条・第4条より

(目的)

第3条 この法人は、優秀でありながら経済的理由により修学が困難な、日本国内で学ぶ大学生・大学院生に対する奨学金の貸与・給付及び留学生に対する奨学金の給付を行うとともに、育英に関する調査研究・情報提供、大学生等の人材育成活動に対する助成事業を行い、もって社会を牽引する人材を育成することを目的とする。

(事業)

第4条 この法人は、第3条の目的を達成するため、次の事業を行う。

- (1) 日本国内で学ぶ大学生・大学院生に対する奨学金の貸与・給付及び留学生に対する奨学金の給付並びに奨学生に対する指導・助言
- (2) 育英に関する調査研究・情報提供事業
- (3) 大学生等の人材育成活動助成事業
- (4) その他この法人の目的を達成するために必要な事業

## I. 事業の状況

### 1. 大学生への奨学金支給事業 <公益事業1>

<2018年4月奨学生の正式採用者について>

#### (1) 大学奨学生<一般枠>の採用人数

2017年度に予約採用した88名のうち64名および2016年度予約採用の一浪8名のうち7名が、2018年4月に当財団指定大学への入学を果たしたので、計71名が大学奨学生として正式採用になった。(男性34名・女性37名/国立45名・公立4名・私立22名)

大学奨学生<一般枠>1年生～4年生	
2015年入学	44名
2016年入学	69名
2017年入学	67名
2018年入学	71名
総数	251名

## (2) 大学奨学生<芸術枠>の採用人数

2017年度に予約採用した6名のうち3名および2016年度予約採用の一浪3名のうち3名が、2018年4月に当財団指定の芸術系大学・学部への入学を果たし、計6名が大学奨学生として正式採用になった。

(男性1名・女性5名／公立3名・私立3名)

大学奨学生<芸術枠>1年生～4年生	
2015年入学	7名
2016年入学	5名
2017年入学	8名
2018年入学	6名
総数	26名

## (3) 大学奨学生<震災支援枠>の採用人数

震災支援枠は2016年度をもって募集を終了したため、<震災支援枠>での2018年採用者は0名。

大学奨学生<震災支援枠>1年生～4年生	
2015年入学	7名
2016年入学	17名
2017年入学	14名
2018年入学	—
総数	38名

## (4) 海外留学・活動支援制度について

奨学生が幅広い視野を持ち、グローバルに活躍できる人材として成長する一助となることを目的に2014年度に支援制度を開始した。

2018年度の利用者は延べ42名で費用は750万円であった。

## (5) 大学貸与奨学生について

大学貸与奨学生については、2010年度に募集・採用が終了しているため、2015年度から奨学金の支給はしていない。

1965年度(昭和40年度)第1期奨学生採用以来、貸与奨学金の累計は26億8,171万円である。

## <2019年4月奨学生の採用内定者について>

### (1) 大学奨学生の予約採用 (2019年4月大学入学)

一般枠・芸術枠とも、2018年4月下旬から6月にかけて募集を行い、奨学生選考委員会の書類選考、選考委員面接を経て一般枠91名(両親がいない枠2名含む)、芸術枠3名、計94名を採用内定した。

受験結果(一浪生を含む)を踏まえた2019年4月入学の正式採用者数は、以下の通り92名となった。

	一般枠	芸術枠	合計
現役	72名	1名	73名
浪人	18名	1名	19名
計	90名	2名	92名

#### 【制度概要】

応募資格：当財団が指定する国公立高等学校で成績優秀かつ学費の援助が必要と認められる高校3年生。

採用内定：受験等助成金10万円を2018年10月に支給。当財団指定の大学に2019年4月に入学した者に対して、入学一時金30万円および月額7万円の奨学金を支給する(最長4年間)。

※なお、採用内定者が指定大学への入学を果たせなかった場合は、次年度の再受験を認める。(所謂一浪まで可)

## 2. 大学院生への奨学金給付事業 <公益事業1>

### (1) 大学院奨学生(国内・修士課程)の採用人数

大学院進学を予定している当財団大学奨学生の中から、2017年3月から5月に実施した奨学生選考委員会の書類選考、選考委員面接を経て、9名を採用内定した。うち6名が大学院に進学し正式採用した(2018年4月入学)。その結果、大学院奨学生は2017年度採用の12名と合わせて18名となった。

※2012年度募集から制度変更を行い、対象者を当財団の大学奨学生に限定。

### (2) 大学院奨学生(外国人留学生)の採用人数

2010年度から行っていた中国からの大学院留学生の受入れは、2014年度の採用をもって5年の協約契約期間満了となり、中国教育部との合意により終了している。(既に全員が修了。)

### (3) 海外留学・活動支援制度

奨学生が幅広い視野を持ち、グローバルに活躍できる人材として成長する一助となることを目的に2014年度に支援制度を開始した。

2018年度の利用者は3名で費用は90万円であった。

なお、2019年4月大学院奨学生については、内定者10名のうち8名が進学し正式採用となった。

#### <2018年度奨学金 支給総額>

	大学生 (一般・芸術・震災支援)	大学院生	大学院留学生	計
奨学金総額	26,278万円	1,632万円	—	27,910万円

### 3. 奨学生の研修・交流会事業 <公益事業1>

#### (1) 大学院生・大学3年生セミナーの実施

大学院と大学3年の奨学生に対して、8月に1泊2日でセミナーを実施した。このセミナーは奨学生の研修と交流を目的とするもので、14名の大学院生および69名の大学3年生が参加し、奨学生相互の研鑽と親睦が図られた。

<時期> 2018年8月25日(土)26日(日)

<会場> クロス・ウェーブ船橋

<講師>

[大学院生] (株)電通 電通Bチーム クリエーティブディレクター 倉成 英俊氏  
テーマ…これからの人生を創造する、発想合宿

[大学3年生] 我究館 館長 熊谷 智宏氏  
研修内容…自己分析とキャリア研修

## (2) 大学1年生・2年生セミナーの実施

大学1年生72名、大学2年生78名が参加して、9月に1泊2日のセミナーを実施した。学年別に講義やグループディスカッションを行うとともに、奨学生間の交流も図った。

- <時期> 2018年9月15日(土)16日(日)
- <会場> 湘南国際村センター(神奈川県葉山町)
- <講師> セミナーは、学年別に、それぞれ経験豊かな講師によって行われた。

[大学1年生] アイディア社 西田氏・影山氏  
研修内容…ロジカルコミュニケーション・スキルとプレゼンテーション・スキル

[大学2年生] 価値創造コンサルタント 岡田 浩一氏  
研修内容…価値を生む課題解決

## (3) 「奨学生の集い」の実施

「奨学生の集い」は全奨学生を対象に、奨学生の研修と相互交流および奨学生と選考委員・事務局との交流を目的に、毎年開催している。内容は前半が講演会、後半は交流会の2部構成となっている。

2018年度の「奨学生の集い」は、11月に奨学生、大学関係者、及び奨学生OB・OGなど約300名が参加して行われた。うち、現役奨学生は262名であった。

- <開催日・会場> 2018年11月17日(土) 東京汐留 電通ホール
- <講師> サッカー元日本代表 北澤 豪(きたざわ つよし)氏
- <テーマ> 「自分を知ることが夢へのステップ」

## (4) 修了生交流会の実施

2018年度卒業・修了予定の大学奨学生と大学院奨学生の祝福と今後の活躍を期待して、当財団の選考委員など来賓出席のもと、2019年3月9日(土)に帝国ホテルにて「修了生交流会」を開催した。

## 4. 育英に関する調査研究・情報提供事業 <公益事業1>

### (1) 会報誌「IKUEI NEWS」の発行

奨学生や高等教育関係者への有益な情報提供を目的に、年間4回（4月、7月、10月、1月）発行してきた会報誌「IKUEI NEWS」を、2018年4月号（vol.82）より約14年振りに全面リニューアル。コンセプトを「学生と未来を考える」とし、大学・大学院や企業等での先進的な取り組みや各方面の専門家や研究者の方々への取材、寄稿などを通じて、社会の動向や課題などについて、様々な情報を提供する内容とした。

- ・配布先：奨学生（OB、OG含む）、大学関係（教育研究者、学長室、学生部）、全国の図書館、教育研究機関など
- ・発行部数：各号約4,000部配布

2018年度年間テーマ：イノベーションで進化する社会を学ぶ

	発行月	特集テーマ	取材大学
Vol. 82	2018年4月	私たちが生きる「AIの時代」とは	関西大学 他
Vol. 83	2018年7月	私たちの「はたらく」のこれから	広島大学 他
Vol. 84	2018年10月	「変化の波」をしなやかに乗り切る	熊本大学 他
Vol. 85	2019年1月	未来を芽吹かせる「学び方」	神戸大学 他

### (2) リーダー育英塾の開催

2008年より2017年まで10年間実施してきた「大学生研究フォーラム」を発展させ、「高大社連携を意識したトランジション教育改革」を高等学校・大学で推進していく「次世代リーダー」の育成を目的に、少人数の参加者によるワークショップ形式の「リーダー育英塾」をスタートさせた。

#### 【第1期「リーダー育英塾」概要】

<日程> 2018年8月6日（月）～8日（水）<2泊3日の合宿>

<会場> クロス・ウェーブ船橋（千葉県船橋市）

<対象者> 教育現場を持つ高校または短期大学・大学の関係者

<参加人数> 34名※

<講師・ファシリテーター>

溝上 慎一（京都大学 教授）、中原 淳（立教大学 教授）、河井 亨（立命館大学 准教授）、畑野 快（大阪府立大学 准教授）、川妻 篤史（桐蔭学園 教諭）、舘野 泰一（立教大学 助教）、田中 聡（立教大学 助教） ※肩書は開催時

※3月下旬より電通育英会ホームページにて募集（事前課題有）を行い、上記講師・ファシリテーターと事務局で選考を行い、150名を超える応募者の中から34名を選出。

### (3) 大学生のキャリア意識調査の報告

2018年度は、以下3件の調査を実施。

- ①京都大学（溝上研究室）と共同で、「大学生・成人を対象とした学校から仕事・社会へのトランジション調査」を2017年夏から2018年夏にかけて実施した。
- ②桐蔭学園（溝上チーム）と共同で、「高校生・大学生・成人を対象とした、学校から仕事・社会へのトランジション調査研究」を2018年秋から2019年秋にかけて実施する。
- ③立教大学（中原研究室）と共同で、トランジションに関して「リーダーシップ教育の効果性を縦断研究・追跡調査」によって明らかにする。

②③については、本年夏に開催する「リーダー育英塾」でその調査結果を活用予定。

#### <2018年度 奨学金以外の事業別 活動支出額>

奨学生の 集い	大学院生・ 大学3年生 セミナー	大学1・2年 生セミナー	修了生 交流会	IKUEI NEWS	リーダー 育英塾	大学生 調査研究
932万円	641万円	970万円	422万円	3,011万円	552万円	1,552万円

計 8,080万円

## 5. 大学生等の人材育成活動助成事業 <公益事業2>

### (1) 2018年度助成事業について

2017年10月、首都圏エリア（1都3県）の非営利組織を対象に、助成金額枠を上限100万円とし、「大学・学生枠」と「一般枠」を設けて募集。  
 応募総数27件から、2018年2月に助成団体選考委員会にて書類選考及び面接選考を行い、人材育成の視点に加え、①過去の活動実績、②活動の目的・有用性、③実施計画の妥当性、④計画遂行力などを総合的に勘案し、12団体を採択。4月からの1年間の活動に対して、資金助成を行った。

#### 2018年度助成：「大学・学生枠」5団体

(順不同)

OVAL JAPAN 実行委員会	IBC (International Business Contest) 国際ビジネスコンテスト
とうようだいがく か し も もくしょうじゅく 東洋大学 加子母 木匠塾	学生による地産材を利用した体験型木造建築実習
法政大学 市ヶ谷ボランティアセンター 「チーム・オレンジ」	学生による防災啓発活動と東日本大震災復興支援
東京大学 UTSummer	UTSummer Hinohara 檜原村での「対話型サマーキャンプ」
早稲田大学 平山郁夫記念ボランティアセンター	早稲田大学平山郁夫記念ボランティアセンター 主催 ボランティアスタディツアープログラム

#### 2018年度助成「一般枠」7団体

(順不同)

NPO 法人 エデュケーション ガーディアン シップ グループ	JSA (Japanese Speech Award) 国際交流フェア
一般社団法人 こどもとみらい教育研究会	プログラミング教育 STEM 教育リーダーシップ教員養成プロジェクト
公益財団法人 ジェスク 音楽文化振興会	第39回霧島国際音楽祭2018 マスタークラス関連コンサートに関して
NPO 法人 大学宇宙工学コンソーシアム	The 9th CanSat Leader Training Program (空き缶人工衛星製作トレーニング)
NPO 法人 日本教育再興連盟	教育に特化した被災地フィールドワーク およびワークショップの実施
NPO 法人 藤沢市民活動推進機構	“社会を知るため”のワカモノ× NPO インターンシッププログラム2018
NPO 法人 BOON	こんぺいとうゼミ～教員志望者の人材育成講座～

### (2) 2019年度助成団体の募集・採用

2019年度は、以下の項目について変更して募集した。

- ・応募枠の廃止  
「大学・学生枠」と「一般枠」の区分を廃止。
- ・助成条件の再整理  
「団体の資格」と「助成対象の活動・プログラム」として整理していた助成条件を、



「助成対象となる団体」と「助成対象となる事業」とに再整理。

・選考基準の新設

選考基準を明確にし募集要項に明記。

<目的と成果> : 人材育成の目的が明確で、かつ十分な成果が期待できるか

<計画と実現性> : 事業体制、事業計画、予算、スケジュール等が明確かつ適切で実現可能か

<継続性と発展性> : 一過性の活動でなく、今後も継続・発展していくことに期待がもてるか

募集の結果、総数 36 件から、2019 年 2 月に助成団体選考委員会にて書類選考及び面接選考を行い、12 団体の活動を採択した。なお、2018 年度助成対象で、2019 年度も助成対象として継続採択された団体は 5 団体となった。

2019 年度助成：12 団体

東京大学 UTSummer	UTSummer Hinohara 檜原村での「対話型サマーキャンプ」
P.A.L. Project 慶應大学	P.A.L. Project (Promoting Asian Leadership) アジアにおけるリーダー育成
NPO 法人 藤沢市民活動推進機構	“社会を知るため”のワカモノ× NPO インターンシッププログラム 2019
早稲田大学 平山郁夫ボランティアセンター公認 早稲田大学 思惟の森の会	田野畑村での新たな域学連携の試み 「思惟の森プレイパーク」プロジェクト
NPO 法人 ハビタット・フォー・ヒューマニ ティ・ジャパン	Habitat Leadership Academy ユースコーチ研修 アジア太平洋地域でのリーダー育成
一般財団法人 教育支援グローバル基金	エンデバー2019 サマーリトリート 児童養護施設に暮らす高校生を対象 としたキャリアサポートプログラム
柏の葉サイエンス エデュケーションラボ	各種講義と科学講座・ワークショップ等の 実施を通じた学生科学コミュニケーター 実践養成講座
学生団体 GEIL (ガイル) 東京大学	学生のための政策立案コンテスト 2019
一般財団法人 出版文化産業振興財団 (JPIC)	ワテラス・ライブラリー with JPIC YOUTH 「本」を介した学生や地域とのコミュニティ
NPO 法人 日本教育再興連盟	教育に特化した被災地における プロジェクトベースドラーニングの実施
法政大学 市ヶ谷ボランティアセンター 「VSP (ボランティア支援プロジェクト)」	富士山外来種駆除ボランティア活動 富士山清掃・トレイル整備ボランティア活動
公益財団法人 ジェスク音楽文化振興会	第 40 回霧島国際音楽祭 2019 マスタークラス関連コンサートに関して